新収蔵資料紹介　-鶴馬・馬場家の板碑-

難波田城資料館　石塚　宏明

平成 20 年 10 月に市内鶴馬地区、殿山遺跡下の馬場家より板碑 3 基が難波田城資料館に寄贈された。

付近には、戦国時代後半の遺構・遺物が出土した殿山遺跡や、板碑や渦巻きかわらけの出土した宿遺跡があり、今回紹介する資料とかかわりの深い地域となっている。以下に板碑を紹介する。

１　阿弥陀一尊種子板碑

残存部の高さ 47.5 ㎝、幅 19.0 ㎝、厚さ 2.4 ㎝を測る。頭部は欠損し、種子はキリーク(阿弥陀如来)で蓮座を伴う。貞治六年(1367)九月十二日とある。

２　阿弥陀三尊種子板碑

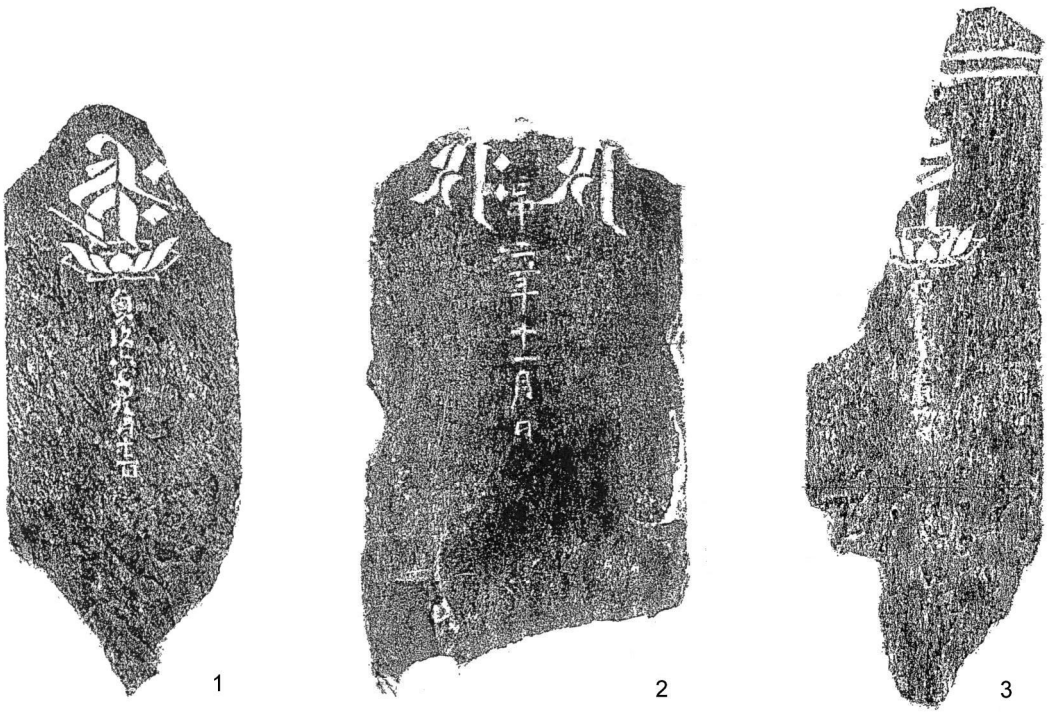
残存部の高さ 49.0 ㎝、幅 26.5 ㎝。厚さ 2.5 ㎝を測る。上部と下部は欠損し、三尊のうち、サク(勢至菩薩)、サ(観音菩薩)のみを残す。正中二年(1325)十一月日とある。

３　金剛界大日如来種子板碑

残存部の高さ 55.0 ㎝、幅 18.5 ㎝、厚さ 2.0 ㎝を測る。上から山形、二条線を刻み、種子はバン(金剛界大日如来)で蓮座を伴う。康暦二年(1380)五月廿日とある。

金剛大日如来種子板碑は、今回の資料を含め富士見市では 3 点のみである。1 つは針ヶ谷西光院墓地の元徳 3 年（1331）の板碑、もう一つは難波田城跡出土の康暦 3 年（1381）の板碑である。時期的には、難波田城のものと近く、同時期に宿や殿山地域でも大日如来の信仰があったことを示す。難波田城との関係性は不明であるが、周辺から渦巻きかわらけなども出土していることにも注目したい。

この地域では、14 世紀前半から 16 世紀初頭までの板碑が多く、馬場家では 1350 年代から 1380 年代にかかる現亡資料も過去に報告され、その多くが阿弥陀一尊板碑である。その他結衆板碑の一部と思われる図像板碑片も馬場家墓地に残っており、中世の人々の活動の形跡を伝えている。



鶴馬・馬場家から寄贈された板碑（S=1/6）